



No. 176

ティークレイク

## Tea Break

何時かは？ ピアノを！

会員 若林 擴

我が家にはグランドタイプの電子ピアノが2台ある。何時かはピアノを弾けるようになりたいと思い、若い頃、私専用の音楽ホールと自宅の音楽室に、各一台買っておいたものである。

当時、日本経済は高度成長期を迎え、1986年のバブル期に向かってまっしぐらに突き進み、大企業と共に繁栄する中小企業に寄り添って、特許事務所も空前の黄金時代を謳歌した。

この時代に開業した多くの弁理士は時代に恵まれて現在の財を成した。

昔から知的好奇心を持って特許業務に携わる事が出来る弁理士は、同時に夢を追って趣味も追及し、不断に体を鍛えて健康に留意すれば、年齢に関係なく、若さを保ち、死ぬまで楽しく働ける良い職業であった。

ピアノには自動演奏装置が付いていることを良いことに、自ら練習することも無く宝の持ち腐れであった。

ピアノは他の楽器と異なり、「ド」を叩けば誰が弾いても「ド」の音を出す事が出来ることに、色々な楽器を試した後で今更ながら気が付いた。

勿論ピアノの「ラ」「A」が国際基準の442ヘルツに調律師により調整されていればの話だが、他の楽器と異なりいちいち弾く前にチューニングする必要は殆ど無い。

バイオリンは演奏する前に、その都度、4本の開放弦を手前からGDAEソレラミとチューナーでピッチを調整しなければならない。

フルートは頭部管の抜き差しでピッチを調整するだけでチューニングは要らない。エアリードの為、リードも要らない。真っ直ぐな金属管の為クリーニングが楽だ。

トランペットもチューニングの必要はないが、3個のピストン・ヴァルブの組み合わせで、吹き出す息の強弱と通過する息による唇の振動により、同じナンバーのピストン・ヴァルブの組み合わせで、音程の異なった音を何種類も作らなければならない。湾曲した金属管の組み

合わせなのでクリーニングが大変。肺活量に関係なく何故か音は簡単に出ない。

1年間、銀座の音楽教室で、可愛い女の子の様な年齢不詳の先生が、涙ぐましい努力でトランペットを教えて呉れるが、未だに音はまともに出ない。

YouTube(登録商標)では、なんとロボットがトランペットでアニメのテーマ曲を見事に演奏し、5歳の乳幼児までが童謡をピッコロ・トランペットで軽々と吹いていた！

世界一難しい金管楽器の一つのホルンには、トランペットの苦勞から考えると間違っても手を出す事は無いだろう。

ピアノにはそんな儀式は全く要らない。特に電子ピアノは殆ど音が狂わないので、今まで習ったどの楽器に比べても極めて扱い易い。

但し、他の楽器と異なり、両手指に同時に異なった動作を要求する、アクロバティックな動きに慣れるまでは容易な事ではない。然し乍ら練習する度に確実に成果が上がるのが素直に嬉しい。

盲目の天才ピアニストの辻井伸行が凄いのは、先天的に盲目である為スコアを見たことが無い、音の高さと長さを表す音符を見たことが無い。

4分音符、8分音符、16分音符全ての音の長さを見ずに暗記していることと、#、bの音程を暗記していること。

52鍵の全音の白鍵と36鍵の半音の黒鍵の位置を見たことが無いにも関わらず、88鍵もある全てのキーの位置を覚えていて、指が違わずにその位置に行くとは正に神業である。

同じく盲目の天才、イタリアのテノール歌手、アンドレア・ボッチェリは6歳でピアノを始めたが、12歳の時にサッカーボールを頭に受け、脳内出血を起こしたことで先天性緑内障が悪化して後天的に失明した。

障害を乗り越えて法学博士号を取得して弁護士になり、世界的なテノール歌手であるルチアーノ・パヴァロティに見出され、1994年に歌手デビューした。この時は既にスコアを読むことも出来ていたしピアノを弾くことも出来た。

1958年12月弁理士試験にパスした翌年の1959年4月に開業した特許事務所を、新築予定の10階建てのビルに連なる2階建てのアネックスの、角の壁面ガラス張りの中に螺旋階段を設けてある建築プランが気に入って移転を決めた。

当時ビルの建設に銀行は融資を渋った。ビル建設を企てるオーナーはテナント希望者から建築協力金を集めてビル建設を企画した。希望のアネックスの使用権を取得し、完成後毎月金利を付けて返済して貰う条件で事務所を移転した。

事務所の後方に聳え立つ、2007年に竣工した15階建ての上野学園音楽大学に気が付いた。

1904年設立以来113年の歴史を誇り、盲目の天才ピアニスト辻井伸行がこの学校から生まれた。

2015年、この音楽学校でピアノのレッスンを受けようと決めた。

それにつけても自宅でピアノに触る時間がないし、ピアニストに来て頂く時間もない。

ウイークエンドの土曜、日曜の午前中は、40年来メンバーである赤坂のスポーツ・クラブで、紫外線を浴びられるテニスと、ジムで大胸筋を発達させるウエイト・リフティングと、パワー・プレート等のエクササイズ・マシンで一定の筋肉量を保ち、体内の糖を取り除き、肝臓で脂肪を分解し、肥満を防ぎ、血糖値を下げ、糖尿病を抑える効果があるとされる、夢の万能ホルモン・マイオカインを骨格筋から分泌させて、身体の若返りと見た目の若さを両立させる。

午後にはオペラ歌曲のヴォイス・トレーニングとピアノの学校と、銀座の音楽教室にトランペットのレッスン行く、そして得意の新内「蘭蝶」三味線弾き語りを、当代随一の新内の師匠、富士松鶴千代師に、忘れないように稽古を付けて頂きに行く。若い頃覚えた三味線の弾き語りは、一旦乗ることを覚えた自転車と同じで、譜を見れば何時でも弾けるものだ。

従って、休日も自宅の音楽室でピアノに触る暇が無い。

そうだ、未だウイークデイが残っている。9時から5時までは大体事務所に居る。所長室のデスクの後に3台目のピアノを置けばよい。

早速88鍵フルサイズの白いデジタルピアノを銀座の楽器店に注文した。

螺旋階段で繋がれた1階と2階に設置したカメラが、応接や事務所の様子を、所長室の壁面の大画面のディスプレイに映し出し、これをパソコン画面に切り替えると、送られて来た英文メールを読むことが出来る。アメリカ人のパラ・リーガルと相談しながら返信メールを送信するのが、外国担当の私のルーティンだ。

今や、海外の通信を含め、ファックスその他全ての通信は、事務所に居なくとも、四六時中、iPhone、iPad(登録商標)でも見られ、同時に返信出来るとは、1959年代の誰が想像したであろうか？

ルーティンの外国事件の処理が終わったら、気分を転換する為に、振り返ってピアノに向かえるようにした。

上野学園でピアノ教則本バイエル、ハノン、ブルク・ミュラーを使って、基礎の指の練習とソルフェージュを美人の先生から指導を受け、同時進行でショパンのノクターン OP.9-2番とCacciniのアヴェ・マリアを1小節毎習い、事務所で何時でも反復練習出来る。

ヘッドフォンを装着しての練習だから、所長室で40年来外国事件を担当している、ネイティヴ・スピーカーのパラ・リーガルに迷惑は掛けない。

ショパンのノクターンの OP.9-2番とCacciniのアヴェ・マリアは、来年4月の学園の発表会にピアノでデビューするのに、どちらか間に合う方で演奏する積りである。

カッチーニのアヴェ・マリアは、リリックを「アーヴェ・マリーアー・アーヴェ・マリーアー・・・」と繰り返しているだけなので、これなら弾き語りになるかも知れない。

そして、何時の日か、ルチオ・ダラの「Caruso カルソー」をピアノ弾き語りしたいと思い、YouTubeでパヴァロティの歌を数百回繰り返し聞いて、歌とピアノを前頭葉の前頭前野に焼き付け、次のレッスンに備えている。

時には、我が家のダイニングに、日本を代表する音楽事務所の一つで、内外の著名なアーティストのマネジメントを引き受ける梶本音楽事務所の社長夫妻、オペラ二期会のテノールの水船先生とソプラノの大原先生、新国劇辰巳柳太郎を父に持つ美人ジャズ・ヴォーカリストだった新倉美子さん達をお招きして、外国から日本のアーティストまで、遠い昔の懐かしい、ブラックのリリック・コロラトゥーラ・ソプラノ・シンガーのキャスリーン・バトル、ヴァイオリニストのヤッシャ・ハイフェッツ、作曲家・指揮者・ピアニストのレナード・バーンスタイン、コーラス・グループのダーク・ダックス、ジャズ・ヴォーカリストのマーサ三宅、私と同年のベギー葉山等々のアーティスト達の思い出話に、時を忘れ

て深夜まで盛り上がる。

当然、食事の前のエンターテインメントは、iPadに収録されたオペラのアリアをリリコ・スピントの声で唄う私のステージのパブリック・ビューイングである。

音楽学校上野学園音楽教室のホームページの生徒募集に、芸大出のテノールの先生の熱血指導の下で、ヴォイス・トレーニングを受けている私の映像と、音楽教室発表会と入力すると、音声が収録されていないのが誠に残念だが、オペラ歌曲「Non ti scordar di me」をテノールで唄っている私の映像が見られる。

音楽学校の生徒達は何時の日か学校を卒業するだろう。ドイツに20年間勤務した元ハンブルグ総領事だった弟も、退官後、時々天皇のお茶会に呼ばれたりして悠々自適しているようだが、趣味のカメラ以外に余生を持って余している。

私は、知的好奇心を満足させる弁理士の仕事からと、色々な楽器を演奏する事によって、意欲、創造、実行を司る前頭葉を刺激する事とからと、銀座のピヤホール

で、藤原歌劇団のプリモ・シンガー主催のオペラ歌曲を唄う教室でソロで歌わせて頂き、又毎年コンサートホールの500人の聴衆の前で、プッチーニのオペラ「トゥーランドット」のアリア「NESSON DORMA 誰も寝てはならぬ」その他オペラの名曲から、誰もやらないイントロを色々な楽器で演奏し、ピアノに合わせてアリアを唄わせて頂き、(次は Con Te Partiro のイントロをトランペットで演奏して唄い、ミュージカルのキャッツからメモリーを唄う積り) 否が応でも幸せホルモンのエンドルフィンを分泌させる事からと、便利になったもので最早CDを必要とせず、iPhoneとBluetooth(登録商標)でペアリングしたスピーカーの簡単な音源で(更にiPhone要らずのインタラクティブなAIスピーカーが発売された)、何時でも世界中の名歌手の歌声に包まれてストレスを緩和し、幸せな気分になる愛情ホルモンのオキシトシンを分泌させる楽しみから、今後も卒業する気は全く無い。

2018年(平成30年)の今年は「成年」、私の年。

**JPAA  
Information**

## ヒット商品は こうして 生まれました!


平成28年  
改訂版

### ヒット商品を支えた知的財産権

「パテント・アトニー誌」で毎号連載しております、「ヒット商品を支えた知的財産権」。

こちらの記事を一冊にまとめた「ヒット商品はこうして生まれました!」は発明のストーリーをコンパクトにまとめたもので、非常に好評を博しております。

是非ご覧いただき、知的財産、更には弁理士への理解を深めていただければ幸いです。



◆本誌をご希望の方は、[panf@jpaa.or.jp](mailto:panf@jpaa.or.jp) までご一報ください。